

◆生徒ら回答基に調査

大阪市立桜宮(さくらのみや)高校バスケットボール部の2年男子生徒(17)が、同部顧問の教諭から体罰を受けた翌日に自殺した問題を受けて、県教委は13日、児童・生徒を対象に近く始める体罰に関するアンケートの内容を発表した。各校に窓口を設置して保護者にも相談を呼びかける。教職員課では「実態を把握して、体罰のない学校づくりに役立てたい」としている。

アンケートの対象は公立の小中学校、高校、特別支援学校計356校の約13万6000人。学年に応じて記述を変えた記名式の6種類で、実施にあたっては、各校に児童・生徒の受験に配慮するよう求めている。

現在の学年になってから学校生活や部活動で先生から殴られたり、蹴られたりしたことがあるかを尋ね、被害に遭ったことがある場合は具体的な日時・場所、教員名、体罰の内容などを書いてもらう。今回の調査への意見を記す自由記述欄も設ける。

回答は原則、各校の校長と教頭が見る。校長と教頭は名前が出た教員に話を聞き、体罰にあたるか判断して3月25日までに県教委に報告する。県教委は結果を集計して4月末に文部科学省に報告し、あわせて、概要を公表する予定。

各校が体罰かどうかを決めることについて、教職員課の石井裕章課長は「体罰が社会問題になっているなか、いまさら隠そうとすることは考えられない」とする一方で、「回答と学校の判断に大きな隔たりがある場合は、県教委が改めて事実関係を確認することも考えたい」と話した。

一方、約1万8000人が学ぶ私立の小中学校、高校計33校には、県文化・教育課が15日に奈良市内で開く説明会で調査への協力を呼びかける。